

心豊かに 元気よく 主体的に学ぶ子の育成
～元気なあいさつ 笑顔いっぱい みんなかがやく 志染っ子～

多様性の包摂 ～「違い」を学びの力に～

ヒガンバナをよく見かける季節になりました。まず茎をぐんぐん伸ばし、その先に花を咲かせ、花が終わってから葉を伸ばす不思議な植物です。植物は様々な色や形の花を咲かせ人々を楽しませてくれますが、その種類は約30万種あると言われています。まさに多様性の世界です。人間も約6000種いる哺乳類の一種であり、私たちもまた、ものの見方や感じ方、そして考え方が一人ひとりみんな違います。現代社会は多様性の時代と言われるように、一人ひとりの違いを大切にし、活かしていくことを目指しています。

かつて社会や学校は、長い間『みんなで同じことを、同じように学ぶ』ことを大切にしてきました。しかし、これからの社会では、多様な人々と協働しながら、さまざまな変化を乗り越えていく力が求められます。

そこで、学校教育の指針となり得る学習指導要領は、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越えていく力の育成を目指しています。授業でも、子どもたちは自分の意見や考えを出し合います。「〇〇さんの意見を聞いて、そんな考え方もあるのだと思った」と、自分にはなかった考えに触れることで学びが広がります。また、「自分は気づかなかったけれど、〇〇さんってすごいな」と、仲間のよさに気づくこともあります。

多様性を理解するとは、自分とは異なる考え方をする人がいることに気づき、自分自身もまた多様性の一部であると受け止めることだと思います。そして、その先には、互いの違いを生かして一緒に取り組む『協働』があります。その中で、自分の考えが仲間の学びにつながるという学びへの貢献意識も育っていきます。

性別や国籍、言語、習慣などの違いだけでなく、一人ひとりが異なる考えをもっていること、そして、その違いがあるからこそ学び合えることを子どもたちに伝えていきたいと考えています。

さて、先週の『志染っ子じんけんデー』にご参加いただきありがとうございます。一人ひとりの人権を尊重することの大切さについて、保護者と子どもが語り合い、考えを深める機会となりました。保護者の皆さまと学校が一緒になり、自分を大切にすることと同じように、周りの多様な人も大切にしていけることも、子どもたちに伝えていきたいと思います。



『志染っ子じんけんデー』
ゲストティーチャーをお招きして